



日本学術振興会特別研究員学内説明会

キャリア開発支援本部の 申請書作成等支援制度について

2025.12.11

男女共同参画推進機構
キャリア開発支援本部

キャリア・コーディネーター 河原郁恵

キャリア開発支援本部とは

研究とキャリアをつなぐ 男女共同参画推進機構

キャリア開発支援本部

文部科学省補助事業 平成23年度～平成27年度
ポストドクター・キャリア開発事業で設立

女性博士のキャリア開発を
支援する経験知の蓄積

女性研究者の 裾野を広げる

いわゆる就職支援
だけでは
ありません

全国54名の**女性ポストドクター**を
(文系34人 理系20人)
インターンシップへ

キャリアパスの拡大と
一人ひとりを大切にする
キャリア開発システム

最高
評価

ライフステージに注目した、
最も“養成者**個人の目線**”で
取り組んでいる大学

自己分析セミナー＝
自己のキャリアを考える
きっかけを与えるユニークな取組

運営
参画

博士後期課程学生の支援
文部科学省・JST補助事業
令和3年度～



令和6年度～



キャリア開発支援本部とは

奈良女子大学 男女共同参画推進機構
キャリア開発支援本部 ご案内地図
事務室 (G406) 相談室 (G414)

C棟に入ってすぐのエレベーターで4階に上がり、左側通路を奥に向かって行くとG棟へのスロープがあります。

学部生からの就職支援は
F棟1階の
キャリアサポートルーム



キャリア開発支援本部とは

できること

a. ご自分と向き合って**思いや考えを整理**する

- ・ 相談・自己分析セミナー など

b. **経験値(知)**を高める

- ・ 研究インターンシップ (C-ENGINE等)の支援
- ・ DCD支援 (就活・学会・研究活動の交通費支援：年間3万円)
- ・ 各種イベントの企画・運営 キャリアトークカフェ みかさカフェ

c. キャリア形成：応募や申請に関する**書類作成・面接対策**

- ・ **日本学術振興会特別研究員（学振）等申請支援**
- ・ 英文校閲経費支援



若草山が見える相談室 G414

情報は
**メール
マガジンで**
配信
お見逃しなく



【奈良女キャリア開発20251117】

日本学術振興会特別研究員学内説明会開催

学振申請支援

日本学術振興会特別研究員（学振DC1・DC2・PD・RPD）等の申請（応募）支援 パワーアップしました

1. 学外専門家のサポート

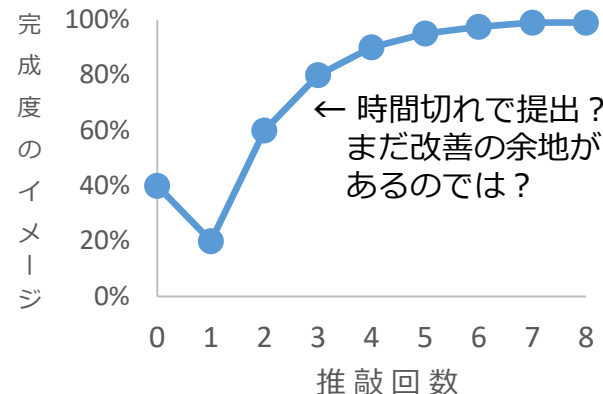
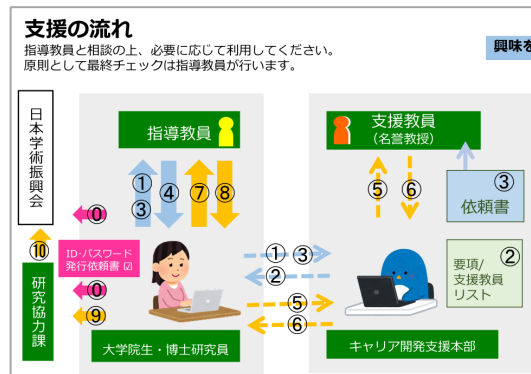
早期に、申請書作成支援のプロによる
セミナー & 個別の助言・添削
R6年度から開始

2. 本学関係者によるサポート

名誉教授・学内教員による助言・添削

名誉教授や学内教員に添削依頼できる制度実施
課題：ほとんどの人が提出2-3週間前ぐらいに添削依頼
→時間に余裕がなく添削の効果を反映しきれていない

● 支援の効果を高めるために



「できる研究者の科研費・学振申請書」
（科研費.com）講談社より

もっと早くから、
書き方がわかって
書き始めていたら...



申請書作成は
研究者の
必須スキル！
応援しましょう



早いスタートで十分な推敲ができた

今年度は2月頃から準備を始めました。
当時はまだ締め切りまで**余裕があると思っていましたが、気づけば残り1～2か月**となり、早めに取りかかって正解だったと感じています。

準備期間が長かったおかげで、新たな実験内容を考えたり、申請書を**ブラッシュアップ**したりする時間が確保でき、学振申請の良い**ペースメーカー**になったと感じています。

添削原稿の**提出期限を決める必要性**があることが非常に良かったです。
非常に早い段階で原稿の締切が設定されていたため、**これまでで一番速く申請書の草案を作ることが出来た**。

大幅な改訂が必要になった時にも再度文献リサーチができる時間があり、**改訂時間が豊富**にあって大変良かったです。

納得しながら修正できた

なぜ概念図が必要なのか疑問に感じていたのですが、先生の添削を通じて、**図の役割が研究目的や内容の要点を視覚的に明示**するものであると理解し、非常に納得感がありました。

着想に至った経緯やインパクトを書くのが苦手ですが、**具体的なコメントをたくさん**もらったからには頑張ろうという気持ちになりました。

指導教員とは異なる視点から、申請書の体裁やわかりやすい(よく使われる)言い回し、図の見やすさなどを指摘していただいた。**「一般的にはこうである」という視点を**教えてもらったことが非常に役立った。

「どこが良くないのか」「なぜ良くないのか」「どのように修正すればよいのか」という順序で説明していただいたことで、**納得しながら修正を進めることができました**。

学振申請支援 (概要)

申請書作成力向上 & 学振採択への支援イメージ

学外専門家のサポート

本学関係者によるサポート

12

1

2

3

4

5

月

自力で書き始める

- 公募（様式公開）
- セミナー受講
- 支援希望書を提出

提出・添削①

コメントをもらって
自分で考えて修正する

提出・添削②

具体的な修正案を
提案してもらう

申請書の書き方の助言

提出・添削③

名誉教授や本学教員
による校閲・添削

提出・添削④

近い研究分野からの助言

研究
協力課に
提出

指導教員と相談・自力で推敲

学振申請支援

学外専門家のサポート

申請書作成支援のプロによる助言・添削

支援概要

内容

3月末までに2回(必須)の添削経費
10,000円/回、計20,000円分を支援
1回目は助言・コメント中心
2回目は具体的な添削

対象

学振特別研究員(DC1・DC2・PD・RPD)に
申請する人 他大学進学者は不可
定員 15人

期間

令和8年1月から令和8年3月31日まで
3月末には返却してもらえるように

注意事項

- ① 必ず「学振特別研究員」に応募する
- ② 2月9日のセミナーを受講する
- ③ 指導教員の許可を得る
- ④ 必ず2回の添削を受ける
- ⑤ 予定人数に達したら受付終了
- ⑥ 4月以降の支援も利用する

学振申請支援

学外専門家のサポート

申請書作成支援のプロによる助言・添削

こうすると、うまく行く！

◆12月

申請書(前年度版)のダウンロード

https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sin.html

ネット上の情報なども収集、構想を練る

指導教員に学振応募の意思表示をする

◆1月

「図」を考える: 研究の全体像、流れなど構想を練るのに役立ちます。

書く 読み返す 書く

◆2月 … 初旬に申請書の様式が公開

9日 学振セミナー ジーラント(株) 児島氏

セミナーを踏まえて自分で書いたものを推敲、様式に変更があった場合はそれに合わせて修正・調整する。

中旬 添削「支援希望書」をキャリア開発支援本部に出す

初回の添削原稿をジーラント(株)にメールで提出

下旬 添削が返却される(コメント中心)

◆3月 … 本格的な添削に向けて書く

上旬 2回目の添削に出す
～中旬

1週間後、ジーラント(株)から返却
下旬 申請に向けたID・パスワード発行申請(研究協力課)

本学関係者によるサポート

名誉教授・学内教員による助言・添削

番号は図「学内の支援の流れ」に対応しています。

支援を希望する場合の手順（昨年度のものにマーカー部分を変更しています）

文字ばかりの記述は
わかりにくいですね。

- ① 日本学術振興会、研究協力課（学内）のHPで募集要項の入手や応募の段取りについて調べる
（「学振」で検索するとお助けサイトもいろいろあります。）
支援を希望する場合は「ID・パスワード発行依頼書」に☑を入れて提出
- ② 指導教員に応募の意向を伝える。支援を希望する場合はキャリア開発支援本部にも連絡することをおすすめします。
- ③ 学内における支援の手順についての説明（またはHPで確認）「要項（依頼書）」「関連分野の支援教員リスト」を入手する（HPからDL可）
- ④ 指導教員と研究計画等についての相談、評価書作成の依頼、支援教員のサポート利用・選定の相談
→ サポート利用が確定したら「依頼書」に必要事項を記入し、キャリア開発支援本部へ提出
- ⑤ 申請書作成に必要な助言を受ける → 頑張って書き上げる
- ⑥ 書き上げた申請書をキャリア開発支援本部にCc.して、支援教員に送り、見てもらう
希望する場合は、キャリア開発支援本部からも、レイアウト、志望動機、アピールポイント等研究以外の部分のアドバイスを受けられる
- ⑦ 添削及びアドバイス（キャリア開発支援本部にもCc.）を支援教員から受け取る
- ⑧ 指導教員に見てもらう
- ⑨ 添削・助言（⑦⑧納得行くまで繰り返す）
- ⑩ 研究協力課に提出 ※
- ⑪ 研究協力課から日本学術振興会に電子申請

※学内の応募窓口は研究協力課です。
応募に関する詳しいことはこちらにお問合せください。
本学HP「研究・社会連携」参照

研究協力課研究協力係
〒630-8506 奈良市北魚屋東町（コラボレーションセンター1階）
TEL 0742-20-3762
FAX 0742-20-3958
kenkyou@cc.nara-wu.ac.jp

本学関係者によるサポート

名誉教授・学内教員による助言・添削

学内の支援の流れ（昨年度から改編）

指導教員と相談の上、必要に応じて利用してください。

原則として最終チェックは指導教員が行います。

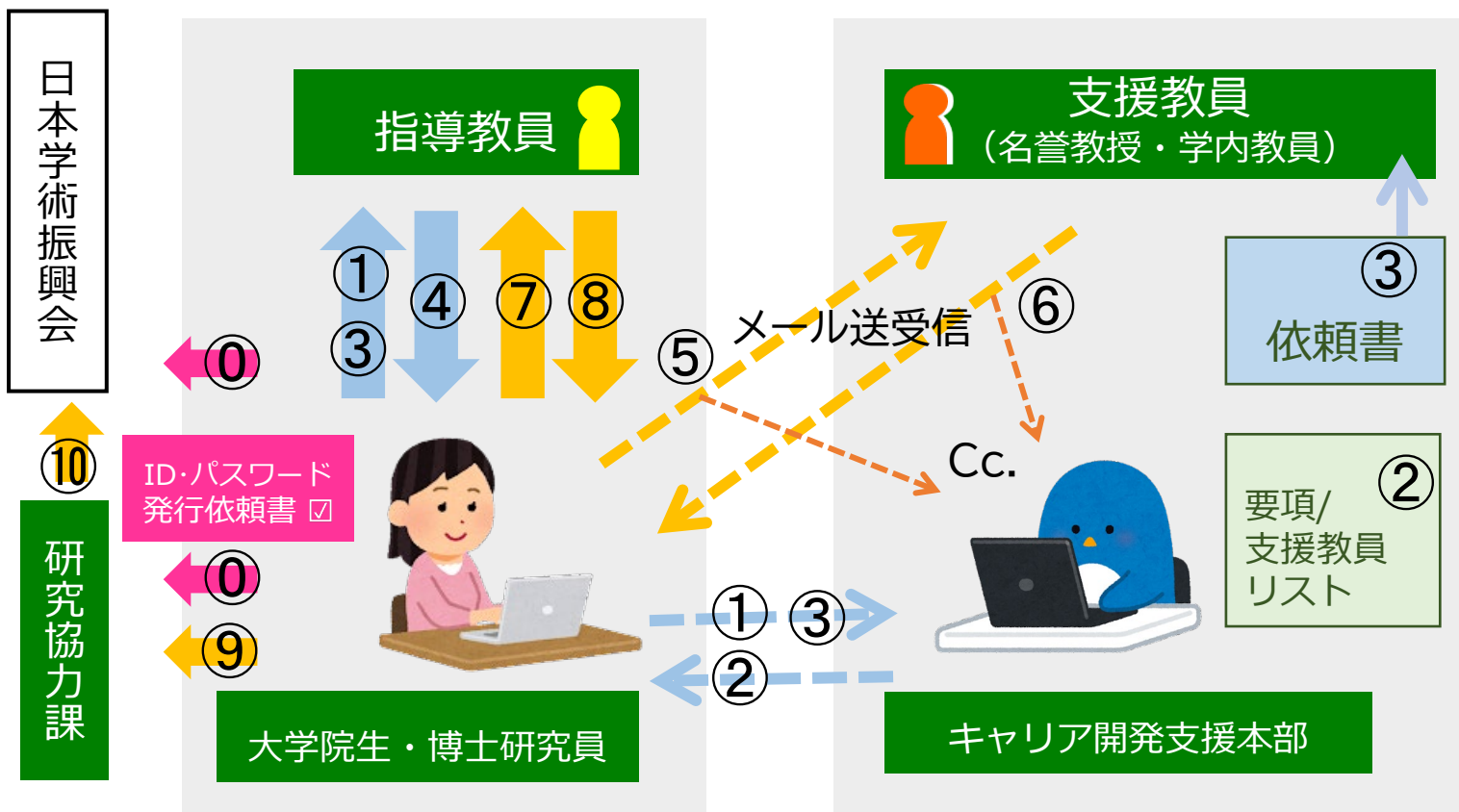
「模式図」にするとわかりやすくなる例だと思います

矢印の色

情報収集

相談・助言

申請書



まずは、
キャリア開発支援本部に
ご相談ください。
下記QRコードで相談の
予約状況がわかります。
ご希望の日時を
career-k@cc.nara-wu.ac.jp
まで、ご連絡ください

※キャリア開発支援本部
の利用は、応募に関して
必須ではありません

問い合わせ先 奈良女子大学 男女共同参画推進機構 キャリア開発支援本部 G棟4階 G406

URL <http://cdpd.nara-wu.ac.jp/> Email career-k@cc.nara-wu.ac.jp Phone & FAX 0742-20-3572

●相談室 G414 (G406の向かい)

●相談する前に予約状況を確認できます →



支援教員の分野リスト

(R5.3月時点のもの 変更の可能性あり 名前を含むリストは応募を検討する方のみに提供します)

御協力いただく名誉教授の方の名簿（分野のみ）

2023.3.20

	御退職時部局	研究分野	備考
1	人文科学系	地理学、人文地理学、歴史地理学、etc.	
2	人文科学系	国文学	
3	人文科学系	英文学、米文学、英米文化、etc	
4	人文科学系	社会学、医療社会学、理論社会学、etc.	
5	自然科学系	細胞生物学、分子生物学、多様性生物学、etc.	
6	自然科学系	生態学、生物多様性学、環境科学、自然史学、etc.	
7	自然科学系	化学、錯体化学、etc.	
8	自然科学系	化学、生物有機化学、文化財科学、etc.	
9	自然科学系	物理学(物性基礎理論：メソスコピック系の物理、量子もつれの物理、厳密解の物理、etc.)	
10	自然科学系	物理学（素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理、etc.）	
11	自然科学系	数学、応用数学、etc.	
12	生活環境科学系	生理学（自律神経生理学、環境生理学、栄養生理学）、etc.	
13	生活環境科学系	社会学、文化人類学、ジェンダー論、etc.	
14	生活環境科学系	都市計画、建築計画、景観計画、環境デザイン学、ect.	2023.3.20登録

研究者としての「自己分析」のヒント

申請書に求められているのは、研究内容だけではありません。 ↓ 昨年度の申請書様式から

- 【4】研究遂行力の自己分析** 本項目は2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可です。
- ・日本学術振興会特別研究員制度は、我が国の学術研究の将来を担う**創造性に富んだ研究者**の養成・確保に資することを目的としています。この目的に鑑み、これまで携わった**研究活動における経験などを踏まえ、研究遂行力**について分析してください。

(注)本行を含め、以下の斜体で記した説明文は申請書を作成する際には消去してください。

- 根拠となるこれまでの研究活動の成果物(論文等)がある場合には、**まず成果物の一覧を掲載し**、見出し番号を付してください。続く文章では、**適宜成果物に言及しながら(言及の際には見出し番号で示すこと)**記入してください。
- 成果物(論文等)は、それらを同定するに十分な情報を記入してください。
- 学術論文の場合：著者、題名、掲載誌名、巻号、頁、発行年を記載し、査読の有無を明らかにしてください。
投稿中で採録が決定していない場合は、「投稿中」と記載してください。
- 研究発表の場合：著者、題名、発表した学会名、場所、年・月を記載し、口頭・ポスターの別を明らかにしてください。

【成果物一覧の例】

1. 論文 ……
2. 論文 ……
3. 研究発表(口頭) ……
4. 受賞

- 記入にあたっては、例えば、**研究における主体性、発想力、問題解決力、知識の幅・深さ、技量、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などの観点から、具体的に**記入してください。また、**観点を項目立てするなど、適宜工夫して**記入してください。
- 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素や意欲的に取り組みたいと考えている事項についても記入してください。

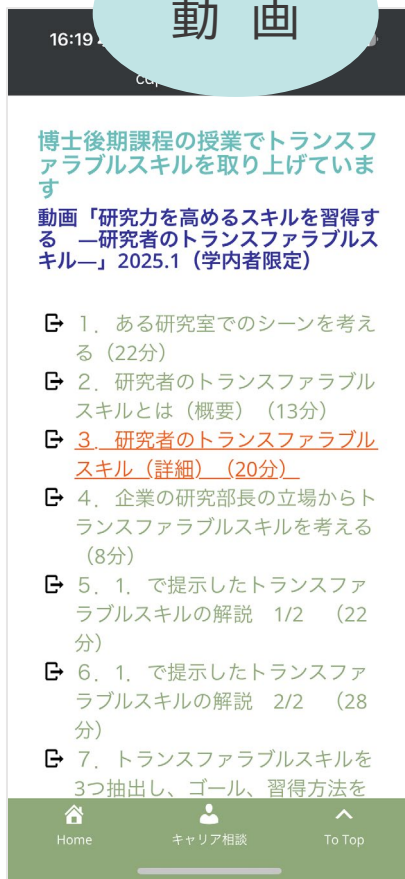
トランスファラブル
スキル
(転用可能な能力)

研究者としての「自己分析」のヒント

申請書は、研究内容だけではありません。

申請書の後半、何を書けばいいんだろう??

と思ったら 「奈良女 トランスファラブル」で検索



私たちは、RISEを紹介する奈良女のオリジナルキャラクターです！

あなたの研究スキルについて、言語化するお手伝いができると嬉しいです！



C-ENGINEは産と学の交流をとおして イノベーションを創出できる人材育成をめざす大学・企業のコンソーシアムです			
学生が身につけるべきトランスファラブルスキル R I S E			
トランスファラブルスキルRISEは、研究者として自立するためのスキルセットであり、大学や企業など、どこにおいても有効に活用されます。これは研究を通じて培われ、再発見・意識されることで、今後のキャリアパスに活かすことができます。			
Research governance and organisation 研究遂行に関するスキル	Intelligence and knowledge 知識・知的能力	Social relationship 他者や社会との関係に係るスキル	Effectiveness 自己開発に係るスキル
R-1 安全、コンプライアンス意識および情報管理技術 ・健康、安全、法令遵守・研究倫理等の重要性が理解できる ・研究者としての情報管理、技術、知的財産権、秘密保持などの契約関係について理解し、高い意識を持つことができる	I-1 理論的知識、情報収集力、数学的応用力、語学力・文章読解力 ・課題解決に必要な基礎知識を有し、必要な情報を収集することができる ・数理科学の知識をベースに数値解析ができる	S-1 チームワーク力、他者との協働 ・チームの戦略・目標、役割分担を理解し、協働できる ・他のメンバーの強み・弱みを理解し、意思疎通を図ることができる	E-1 研究への取り組み姿勢 ・強みと弱みを自覚して、研究に活かすことができる ・熱意、持続力・忍耐力、責任感、主体性、専門家としての誠実さを持って行動できる
R-2 研究の基本的な進め方 ・研究の目的、背景を理解して、課題設定を行い、研究を取り巻く諸事の要因に配慮しながら研究計画を立てることができる	I-2 分析/統合力、論理的思考力、問題解決力 ・課題解決力、論理的思考、分析・統合力等を駆使して研究・開発を遂行できる	S-2 コミュニケーション能力 ・研究遂行にあたって研究室内外および異分野の関係者の理解を得ることができる ・様々な情報伝達手段を用いて十分な議論ができる	E-2 自己管理、時間管理 ・目的を達成するために明確な研究計画を立て、効果的な時間管理を行える ・ストレスマネジメントとワークライフバランスを考慮して自己管理ができる
R-3 資金管理・調達 ・研究を進める際、および、事業を行うにあたっての資金管理・調達の仕組み、実態の理解ができる	I-3 洞察力、探究心、議論展開力 ・自らの経験を活かし、新しいアイデアと裏付けとなる根拠を提示して、社会にインパクトを与える、画期的/創造的な議論ができる	S-3 研究結果の社会への還元 ・研究結果を社会に実装するプロセスを理解できる ・社会的利益を生み出す可能性のある新製品開発や既存の研究の新しい活用方法について考察・発案することができる ・グローバル展開の重要性が理解できる	E-3 キャリア開発、専門能力開発 ・専門的能力の持続的開発が必要であることを認識している ・経験を分析的に振り返り、自己改革のサイクルを追求する ・キャリアプランを描くことができる ・幅広い研究コミュニティ内で、信頼関係を基づく協力的なネットワークを構築する

RISEの各項目とその内容は、VitaeのResearcher Development Frameworkを参考に作成しました。

一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会 (C-ENGINE)

研究者としての「自己分析」のヒント

①RISEスキルセット		～どこでも役立つ、自立した研究者になるためのトランスファラブルスキルRISEの各項目とその内容～（確認用）	
RISEには、以下のようなスキルが含まれています。		RISEスキルセットPDFは、下記URLからダウンロードいただけます	
1)大学で学ぶべき基本的なスキルで、企業や研究機関等でも役立つスキル。		*RISEスキルセットPDF	
2)企業や研究機関等で研究を進めるにあたって特に重要視されるスキル。		成功する研究者の総合的な能力開発にご興味のある方は、英国のVitaeeが開発した「Researcher Development Framework」をご参照ください。	
3)研究成果を社会実装するためのスキル。		*Researcher Development Framework (Vitaee)	
これらのスキルは、洞察（将来を見通す）、反省（状況を様々な視点から客観的に見直す）、行動、これらの繰り返しにより、日々更新すべきものです。			

大項目	小項目	詳細	具体例
Research governance and organisation 研究遂行に関するスキル	R-1. 安全、コンプライアンス意識および情報管理技術	●健康、安全、法令遵守・研究倫理等の重要性が理解できる ●研究者としての情報管理技術、知的財産権、秘密保持などの契約関係について理解し、高い意識を持つことができる	■健康管理 健康管理の重要性を理解し、実践できる ■安全管理 「安全」は何よりも重要である。所属部門の安全管理の精神、ルール、取り組みを理解し、絶対順守する ■倫理・法令順守 研究者として、研究倫理の重要性を理解し、法令を守り、責任ある行動をとる ■知財管理・秘密保持管理 研究者として、知財、著作権、特許管理、知事管理、知事管理、知事管理、知事管理
Research governance and organisation 研究遂行に関するスキル	R-2. 研究の基本的な進め方	●研究の目的、背景を理解して、課題設定を行い、研究を取り巻く諸事の要因に配慮しながら研究計画を立てることができる	■研究目的、目標、戦略の理解（メンターや周囲に確認） ■課題の設定ができる（目標につながる課題抽出、必須） ■研究計画立案（人、物、金、情報、時間（日程）を考慮） ■チームで行う研究への理解と実践（全体と自分のPD確認/自分の理解、疑問を伝達できる） ■困難な状況でも果敢にチャレンジできる（メンターと
Research governance and organisation 研究遂行に関するスキル	R-3. 資金管理・調達	●研究を進める際、および、事業を行うにあたっての資金管理・調達の仕組み、実態の理解ができる	■研究推進、事業運営にかかるお金についての理解（情報管理が難しい場合は可能な範囲で） ■部門が持つ予算、経費を理解し、コスト意識を持つ ■の流れが理解でき、必要に応じて費用削減の方法を理解 ■基本的な財務諸表を理解できる
Intelligence and knowledge 知識・知的能力	I-1. 理論的知識、情報収集力、数学的応用力、語学力・文章読解力	●課題解決に必要な基礎知識を有し、必要な情報を収集することができる ●数理科学の知識をベースに数値解析ができる	■必要な知識の把握と習得 ・探索活動により、課題解決に必要な知識（背景、知識） ・メンターや周囲の人たちの教え、指導、助言を得る ■必要に応じ、数理・データ科学の知識とITを駆使し、
Intelligence and knowledge 知識・知的能力	I-2. 分析／統合力、論理的思考力、問題解決力	●課題解決力、論理的思考、分析・統合力等を駆使して研究・開発を遂行できる	■これまでの研究で培った課題解決力、論理的思考、分析（自己の研究内容を外部に紹介する機会を持つ/上記の） ■メンター等に常に相談・確認しながら、柔軟にアドプト ■実験の前提に捉われず、他の研究者との積極的なデータ共有 ■必要に応じ、数式を用いて定量的に議論できる
Intelligence and knowledge 知識・知的能力	I-3. 洞察力 探究心 議論展開力	●自らの経験を活かし、新しいアイデアと裏付けとなる根拠を提示して、社会にインパクトを与える、画期的／創造的な議論ができる	■既存の方法や常識にとらわれず、洞察力や探究心を発揮 ■他の研究者、技術者との議論を深め、研究を俯瞰的に（異なる見解と発展的な協議ができる/自分の見解を根拠） ■研究内容を理解し、自分の専門を生かした研究を提案

大項目	小項目	詳細	具体例
Social relationship 他者や社会との関係に係るスキル	S-1. チームワーク力、他者との協働	●チームの戦略・目標、役割分担を理解し、協働できる ●他のメンバーの強み・弱みを理解し、意思疎通を図ることができる	■チームワーク理解し順守できる ■全体を見て進める ■他者と常に協働できる（良い関係を築く）
Social relationship 他者や社会との関係に係るスキル	S-2. コミュニケーション能力	●研究遂行にあたって研究室内外および異分野の関係者の理解を得ることができる ●様々な情報伝達手段を用いて十分な議論ができる	■協働するための（発信）相手の理解を確認し、受け取る ■報告、連絡、相談 ■直接会話、電話、メール
Social relationship 他者や社会との関係に係るスキル	S-3. 研究結果の社会への還元	●研究結果を社会に実装するプロセスを理解できる ●社会的利益を生み出す可能性のある新製品開発や既存の研究の新しい活用について考察・発案することができる ●グローバル展開の重要性が理解できる	■研究の社会実装 ・チェン、競争 ■社会実装時の成功を評価する ■グローバル展開
Effectiveness 自己開発に係るスキル	E-1. 研究への取り組み姿勢	●強みと弱みを自覚して、研究に活かすことができる ●熱意、持続力・忍耐力、責任感、主体性、専門家としての誠実さを持って行動できる	■最初に目的、方向性を定める ■目標を設定し、達成に向けて行動する ■先回りして準備する
Effectiveness 自己開発に係るスキル	E-2. 自己管理、時間管理	●目的を達成するために明確な研究計画を立て、効果的な時間管理を行える ●ストレスマネジメントとワークライフバランスを考慮して自己管理ができる	■PDCAを回す ■行動をする/計画を立てる/優先順位など ■時間を厳守する ■体調管理（心身の健康）
Effectiveness 自己開発に係るスキル	E-3. キャリア開発、専門能力開発	●専門的能力の持続的開発が必要であることを認識している ●経験を積極的に振り返り、自己改革のサイクルを追求する ●キャリアアプランを策定することができる ●幅広い研究コミュニティ内での信頼関係に基づく協力的ネットワークを構築できる	■ビジネススキル ■研究スタイル他（グローバル展開） ■自身の適用する ■社員と交流を ■研究以外の業務 ■自らの専門性を

研究遂行に関するスキル:研究の基本的な進め方

具体例と自分の研究活動を照らし合わせよう！

- 研究目的、目標、戦略の理解（メンターや周囲に確認しながら①チームの研究目的、目標、戦略②自分の研究目的,目標,戦略を理解できる）
- 課題の設定ができる（目標につながる課題抽出、必要課題の整理、課題設定のための探索等）
- 研究計画立案（人、物、金、情報、時間（日程）を考慮し、研究のゴール設定、研究の計画立案ができる/論理的に課題解決のストーリーを作成できる）
- チームで行う研究への理解と実践（全体と自分のPDCAをリンクできる/情報共有の重要性を理解し実践できる/相手が理解できる発信＆相手の理解確認/自分の理解、疑問を伝達できる）
- 困難な状況でも果敢にチャレンジできる（メンターとの議論など解決手法を探し、実行する/強い意志を持ち研究に臨むことができる）

①RISEスキルセット

～どこでも役立つ、自立した研究者になるためのトランスファラブルスキルRISEの各項目とその内容～

ご清聴ありがとうございました

奈良女子大学 男女共同参画推進機構
キャリア開発支援本部 ご案内地図
事務室 (G406) 相談室 (G414)

C棟に入ってすぐのエレベーターで4階に上がり、左側通路を奥に向かって行くとG棟へのスロープがあります。



奈良女子大学男女共同参画推進機構キャリア開発支援本部

研究とキャリアをつなぐ

大学院生のための支援



研究とキャリアをつなぐ | 大学院生のための支援

キャリア開発支援本部は
大学院生の皆さんに寄り添い
あなたのみち(道・未知)を、ともに拓きます

キャリア開発支援本部

<https://cdpd.nara-wu.ac.jp/>

相談予約状況確認画面 (予約台帳: りざぶ郎)

<https://www.r326.com/b/main.aspx?id=cdpd>

予約希望、お問い合わせはメールで career-k@cc.nara-wu.ac.jp まで

(TEL 0742-20-3572)